

生活や学習についての アンケート

調査の概要

1 調査の目的

川崎市の公立中学校に在籍する生徒の生活や学習についての意識や実態を把握することにより、各学校における指導方法や授業改善等に資するとともに、本市学校教育全体の充実に向けた基礎資料として活用する。

2 調査の設計

- (1) 調査実施校及び対象者
市内公立中学校第2学年に在籍する全生徒 *調査当日の欠席者を除く
- (2) 調査校数及び回答者数
学校数：51校 回答者数：9,249名
- (3) 調査実施期日
平成26年11月11日(火) 川崎市学習状況調査の一環として各教科の調査後に実施
- (4) 調査方法
記名の質問紙法調査による
- (5) 調査内容及び設問数
生徒の生活と学習に関する意識と実態についての調査 50問
- (6) 設問の主な観点及び視点

	観 点	視 点
1	学校生活に対する意識	楽しさ
2	学習全般に対する意識	好感度、必要性、理由、相談相手
3	各教科等に対する意識	好感度、理解度、有用感
4	家庭学習の実態	学習時間、学習内容、通塾
5	家庭生活の実態	睡眠時間、朝食の摂取、学習の準備、 テレビ・ビデオ・ゲームの視聴・実施時間 1ヶ月の読書量
6	自尊意識、将来に関する意識等	自己肯定感、学ぶこと生きることの尊さ、郷土への愛着、 学びへの挑戦、他者との協力・協働
7	各教科等に対する意識・実態	学習内容・方法に対する好感度 日常生活への活用や関連 等

3 調査結果の集計・分析に当たっての留意事項

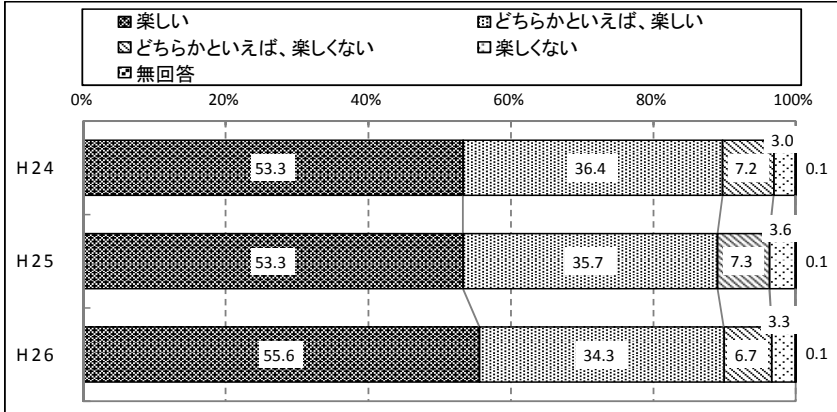
- (1) 単純集計及び分析
 - ①2の(6)にある「設問の観点」ごとに項立てを行い、分析を行った。
 - ②設問ごとに集計結果をグラフで表し、考察を加えた。
 - ③一部の設問では前々年度、前年度の結果を併記して、経年比較分析を行った。
- (2) クロス集計及び分析
いくつかの設問については、クロス集計という手法を用いて分析した。これは、設問Aでの選択肢ごとに設問Bの回答を集計することで、設問Aでの回答選択の違いを設問Bで説明する方法である。このことにより、設問Aと設問Bの二つの設問の間の関連や相関関係等を分析した。なお、クロス集計では無回答者を除いて集計した。
- (3) 各教科の正答率との相関
いくつかの設問については、回答ごとに学習診断テストの各教科の正答率を算出した。これにより各教科の正答率と各設問の回答との間の相関関係について分析した。なお、本分析においても無回答者を除いて集計した。
- (4) 各グラフには、見やすさを考慮して調査結果の割合の数値を記入しきれていないものがある。
単純集計については、「資料 調査結果集計表」の該当設問の数値でご確認願いたい。これにより各教科の正答率と各設問の回答との間の相関関係について分析した。なお、本分析においても無回答者を除いて集計した。
- (5) 数値に関しては、小数点第2位を四捨五入し、小数第1位までで示しているため、合計が100%にならないことがある。

調査結果と分析

I 単純集計

1 学校生活に対する意識

(1) 学校生活の楽しさ【問1】

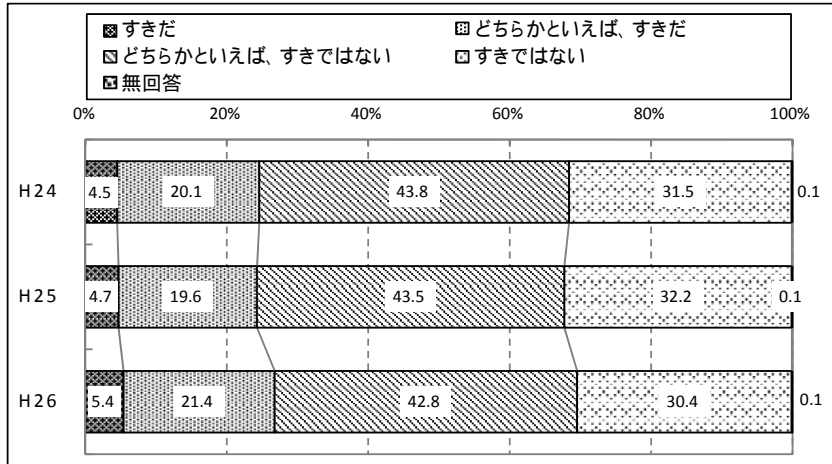


○55.6%の生徒が「楽しい」と回答しており、昨年度と同様である。

○「楽しい」と「どちらかといえば、楽しい」の合計を過去3年間で平均すると89.5%となる。

2 学習全般に対する意識

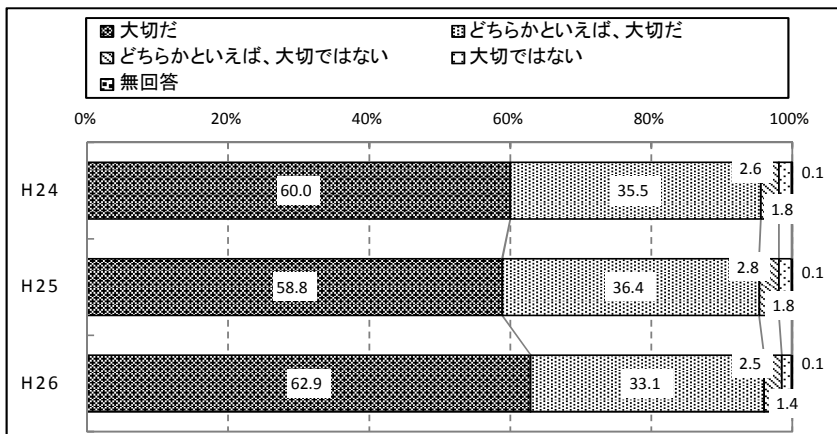
(1) 好感度【問2】



○勉強が「すきだ」、「どちらかといえば、すきだ」を合わせると26.8%となり、昨年度より2.5ポイント増加している。

○30.4%の生徒が「すきではない」と回答しており、「どちらかといえば、すきではない」と合わせると73.2%である。

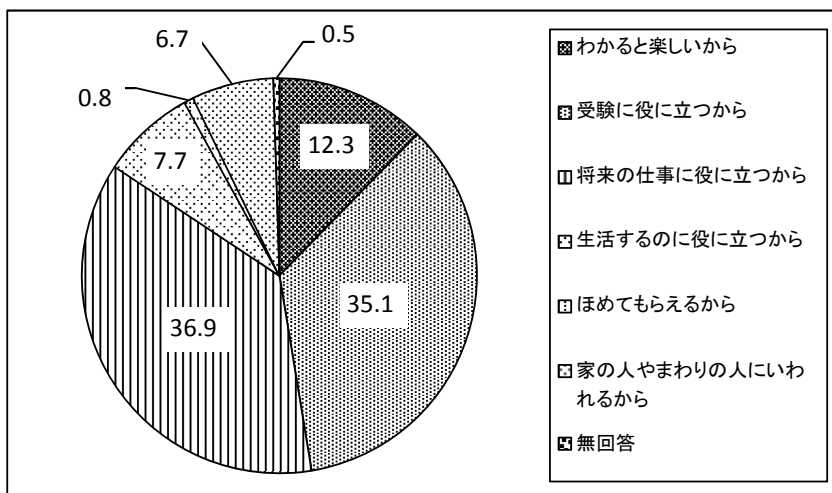
(2) 必要性【問3】



○62.9%の生徒が勉強は「大切だ」と回答しており、昨年度より4.1ポイント増加、一昨年度より2.9ポイント増加している。

○「大切だ」、「どちらかといえば、大切だ」と回答した生徒を合わせると96.0%となり、昨年度より0.8ポイント増加している。

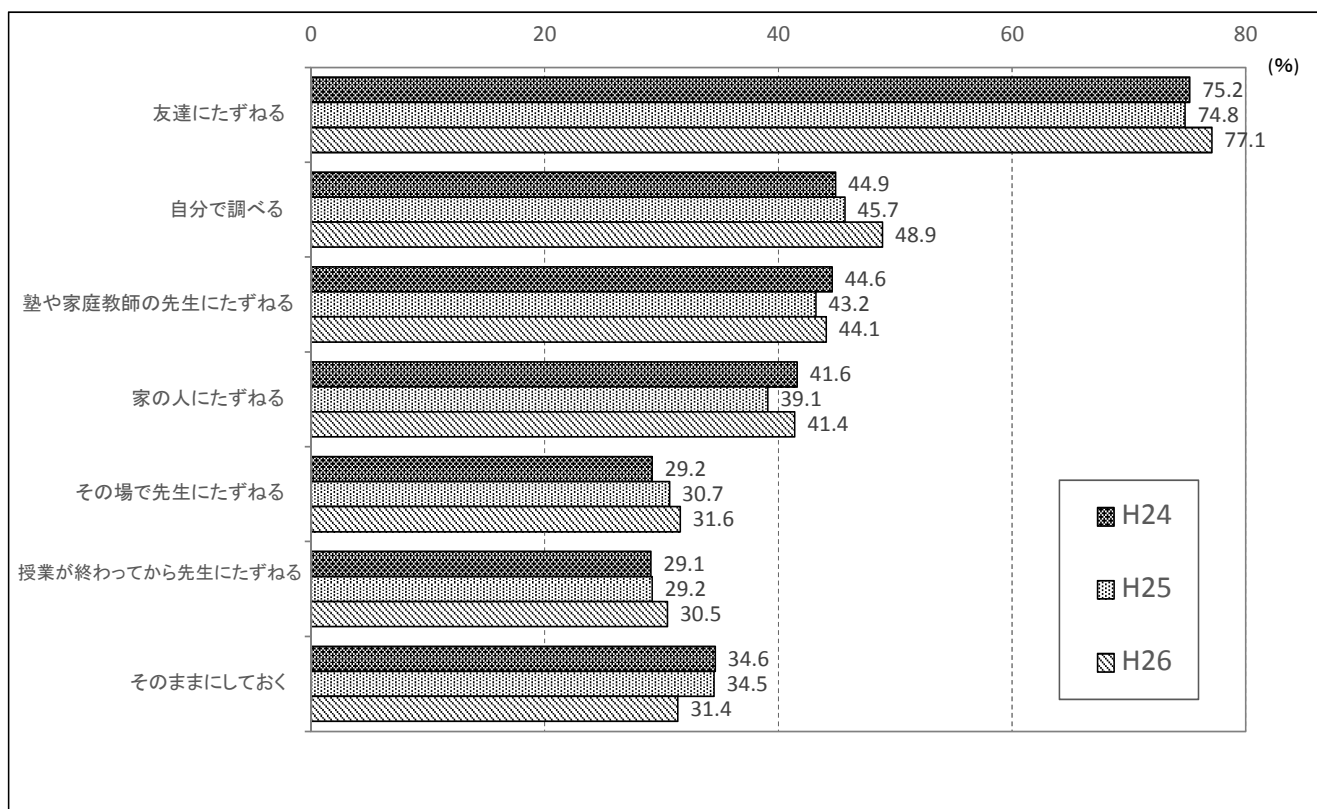
(3) 理由【問4】



○勉強する一番の理由として「将来の仕事に役に立つから」を挙げている生徒が 36.9%で最も多く、次に「受験に役に立つから」が 35.1%で続いている。

○「わかると楽しいから」(12.3%)、「生活するのに役に立つから」(7.7%)という回答が続いている。

(4) 相談相手【問20】(複数回答可)



○授業の中でわからないことがあったときの相談相手として、「友だち」を挙げている生徒の割合が最も高く 77.1%である。

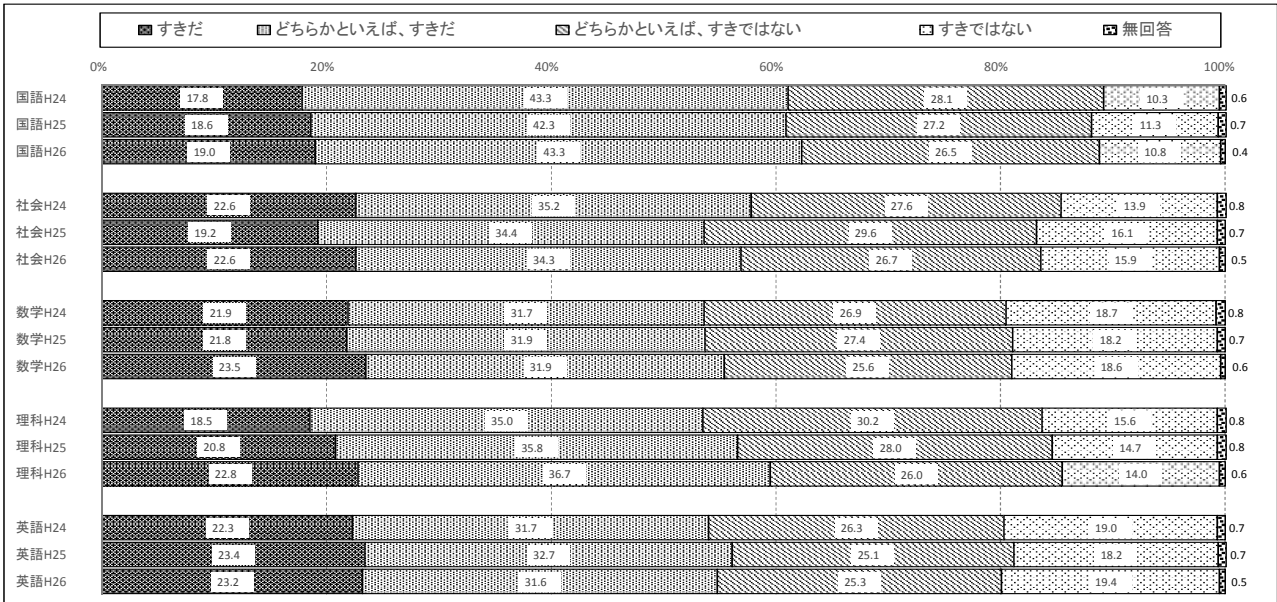
○「自分で調べる」と回答した生徒は、48.9%である。

○「塾や家庭教師の先生」、「家の人」にたずねると回答した生徒はそれぞれ昨年度より 0.9 ポイント、2.3 ポイント増加している。

○「授業が終わってから先生にたずねる」と回答した生徒は 30.5%で、昨年度より 1.3 ポイント増加している。

3 各教科等に対する意識

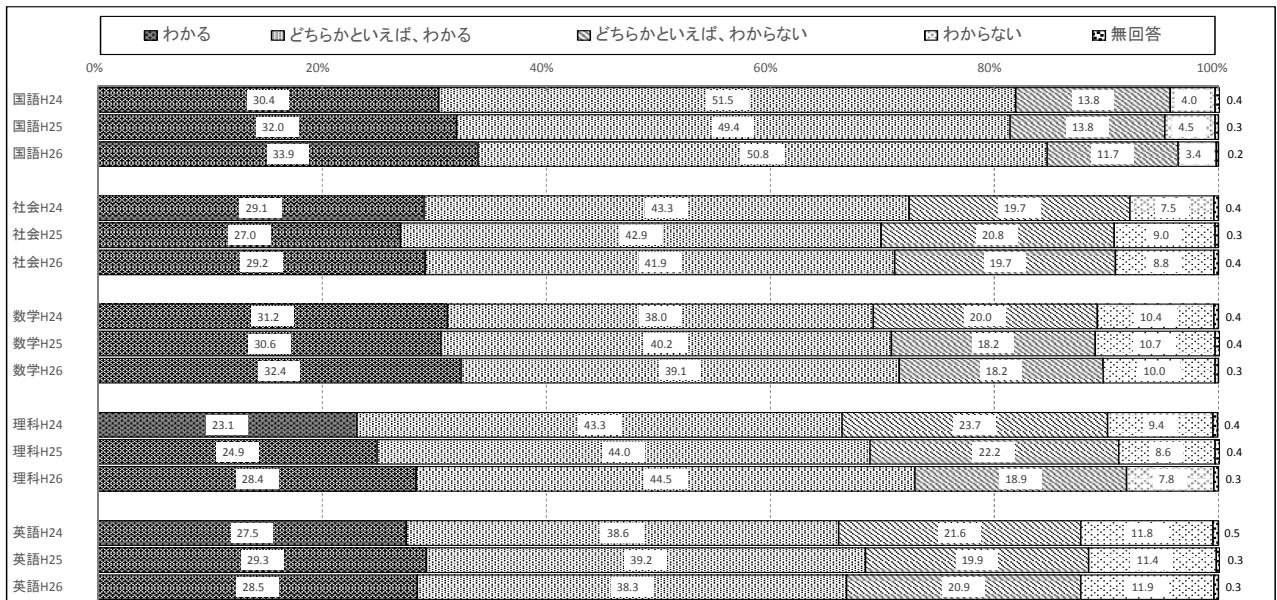
(1) 好感度【問5～9】



○授業の好感度（「好きだ」と「どちらかといえば、好きだ」を合わせた割合）が最も高いのは「国語」の62.3%で、以下、「理科」（59.5%）、「社会」（56.9%）、「数学」（55.4%）、「英語」（54.8%）となっている。

○過去3年間の各教科の好感度の平均は、「国語」は61.4%、「社会」は56.1%、「数学」は54.2%、「理科」は56.5%、「英語」は55.0%である。

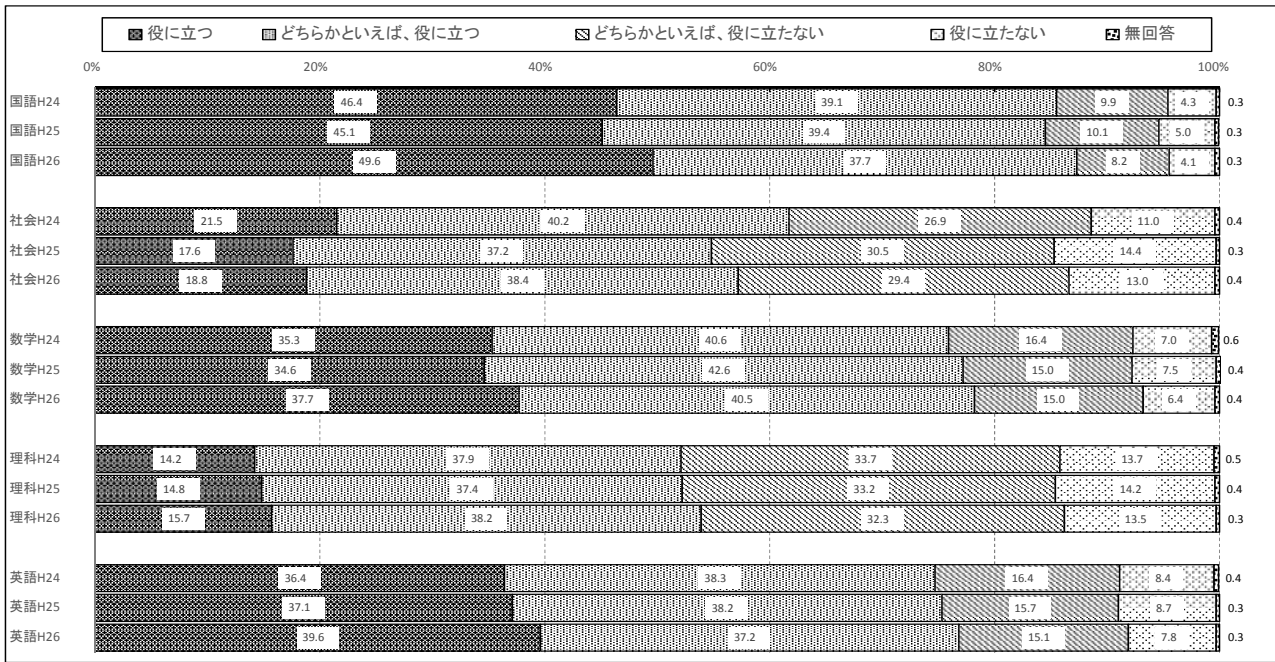
(2) 理解度【問10～14】



○授業の理解度（「わかる」と「どちらかといえば、わかる」を合わせた割合）が最も高いのは「国語」で84.7%、以下、「理科」（72.9%）、「数学」（71.5%）、「社会」（71.1%）、「英語」（66.8%）となっている。

○過去3年間の各教科の理解度の平均は、「国語」は82.7%、「社会」は71.1%、「数学」は70.5%、「理科」は69.4%、「英語」は67.1%である。

(3) 有用感【問 15~19】

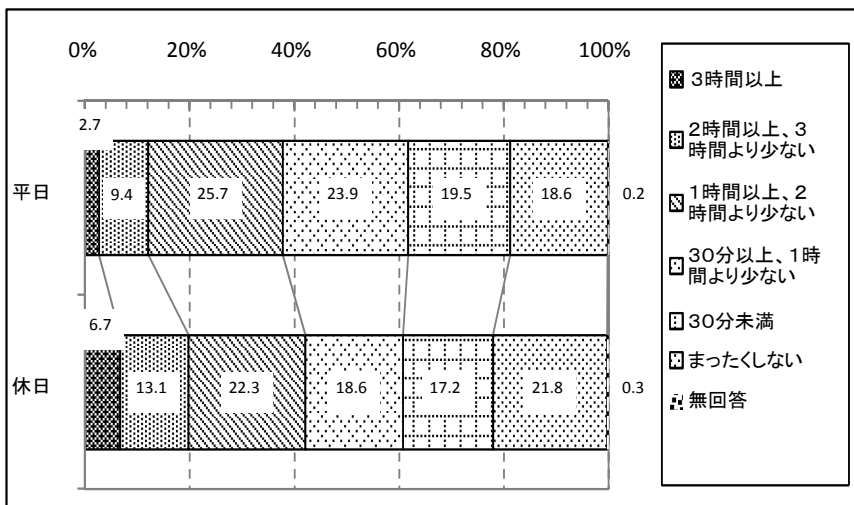


○学習に対する有用感（「役に立つ」と「どちらかといえば、役に立つ」を合わせた割合）が最も高いのは「国語」で 87.3%、以下、「数学」（78.2%）、「英語」（76.8%）、「社会」（57.2%）、「理科」（53.9%）となっている。

○過去3年間の各教科の有用感の平均は、「国語」は 85.8%、「社会」は 57.9%、「数学」は 77.1%、「理科」は 52.7%、「英語」は 75.6%である。

4 家庭学習の実態

学習時間【問 21~22】



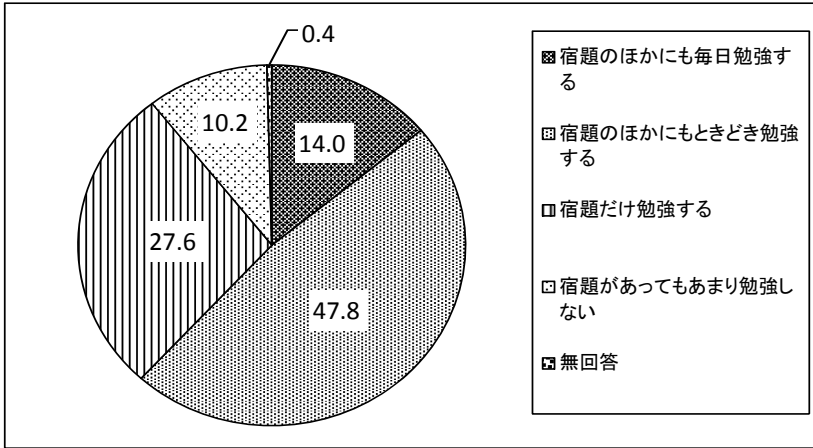
○勉強している時間の中では、平日、休日とも「1時間以上、2時間より少ない」が最も多い。また、休日に「30分未満」「まったくしない」と回答している生徒の割合は、昨年度より増加している。

*資料 意識-26 ページ

【問 21, 22】参照

○平日と休日を比較すると、「30分以上、1時間より少ない」と回答した生徒の割合は、平日の方が 5.3 ポイント多い。

(2) 学習内容【問 23】



○「宿題のほかにもときどき勉強する」と回答した生徒が 47.8%で最も多く、次に「宿題だけ勉強する」が 27.6%で続いている。
 ○「宿題があってもあまり勉強しない」と回答した生徒の割合は 10.2%である。

(3) 通塾【問 24】

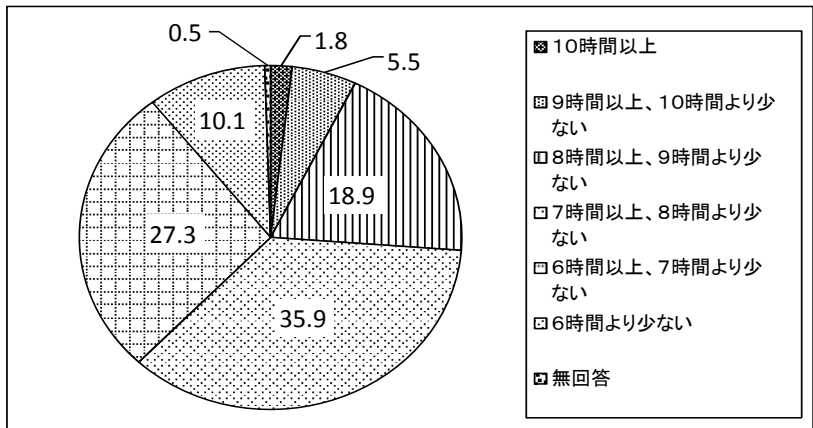
(%)

	通っている	通っていない	無回答
H24	63.0	36.3	0.7
H25	62.4	37.1	0.5
H26	63.2	36.7	0.1

○学習塾に「通っている」と回答した生徒の割合は 63.2%である。
 ○学習塾に「通っている」と回答した生徒の割合は、昨年度より 0.8 ポイント増加している。

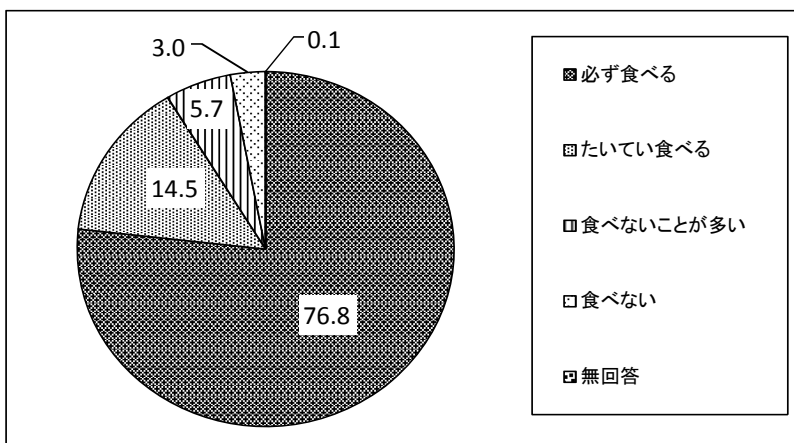
5 家庭生活の実態

(1) 睡眠時間【問 25】



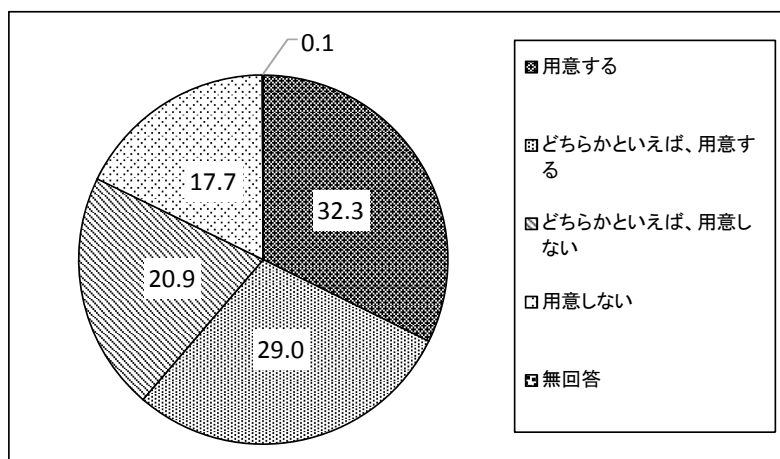
○「7時間以上、8時間より少ない」(35.9%)、「6時間以上、7時間より少ない」(27.3%)という回答が多く、6割以上の生徒の睡眠時間は「6～8時間」である。
 ○睡眠時間が「6時間より少ない」と回答した生徒は 10.1%で、ほぼ1割である。

(3) 朝食の摂取【問 26】



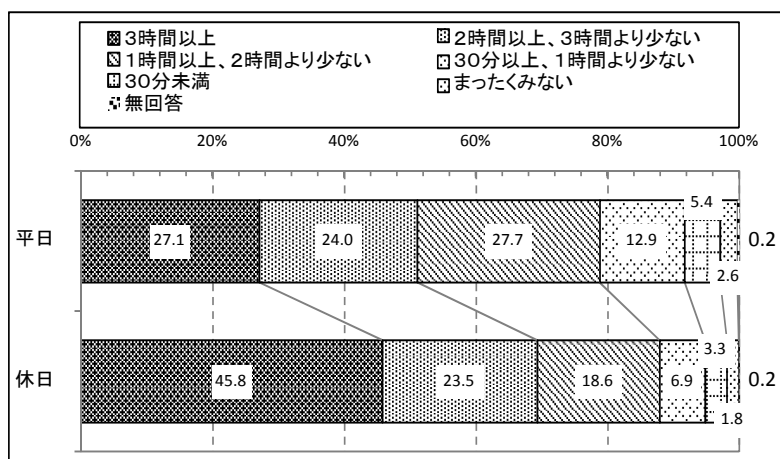
○76.8%の生徒が「必ず食べる」と回答しており、「たいてい食べる」という回答と合わせると、91.3%である。
 ○「必ず食べる」と回答した生徒の割合は、昨年度より 0.1 ポイント増加している。
 *資料 意識-26 ページ【問 26】参照

(3) 学習の準備【問 27】



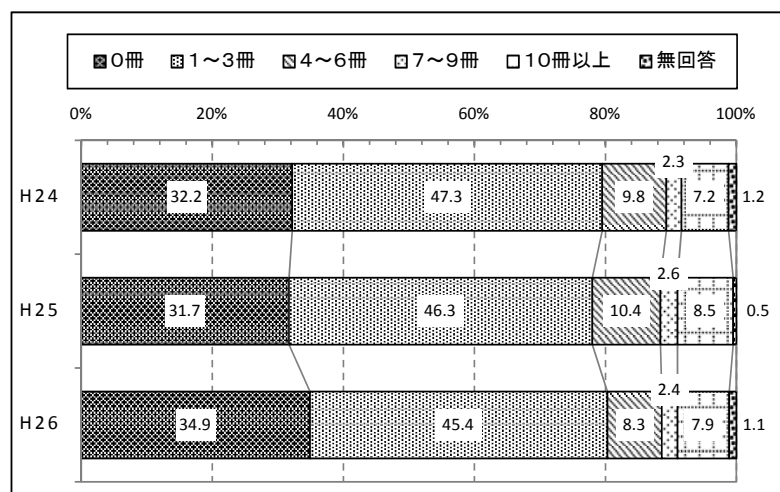
○32.3%の生徒が学校に持っていくものを前日に「用意する」と回答しており、「どちらかといえば、用意する」を合わせると、61.3%である。
○「用意しない」と回答した生徒の割合は17.7%である。

(4) テレビ・ビデオ・ゲームの視聴・実施時間【問 28～29】



○平日と休日と比較すると、休日の方が、視聴・実施時間が長い。
○平日では27.1%、休日では45.8%の生徒が、視聴・実施時間が「3時間以上」である。「2時間以上」を含めると、平日では51.1%、休日では69.3%である。

(4) 1ヶ月の読書量【問 30】

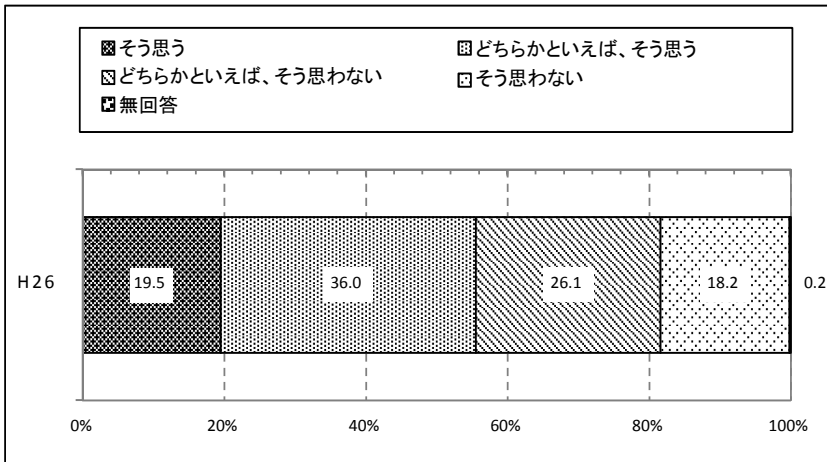


	平均冊数
H24	2.5冊
H25	2.6冊
H26	2.5冊

○「0冊」と回答した生徒は34.9%で、昨年度よりも3.2ポイント増加している。
○1ヶ月の読書量では、「1～3冊」が最も多く45.4%で、昨年度より0.9ポイント減少している。

6 自尊意識・将来に関する意識等

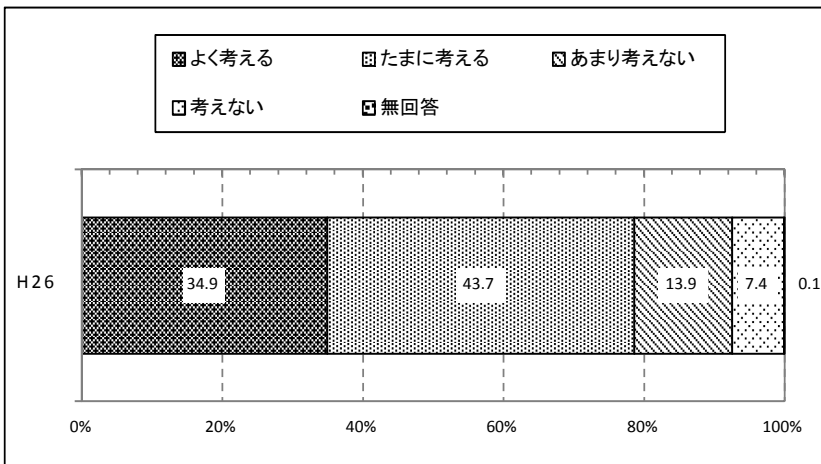
(1) 自慢できること【問 31】



○「そう思う」「どちらかといえば、そう思う」と回答した生徒の割合は55.5%である。

○「どちらかといえば、そう思わない」「そう思わない」と回答した生徒の割合は、44.3%である。

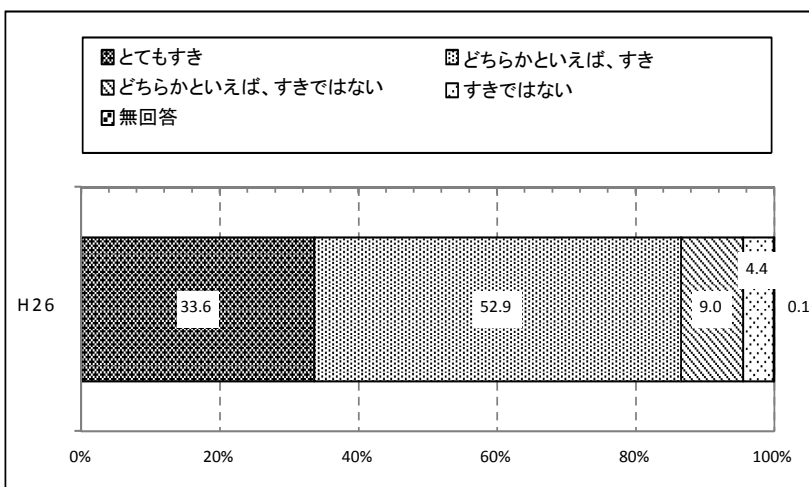
(2) 将来やってみたいこと【問 32】



○「よく考える」「たまに考える」と回答した生徒の割合は78.6%である。

○「あまり考えない」「考えない」と回答した生徒の割合は、21.3%である。

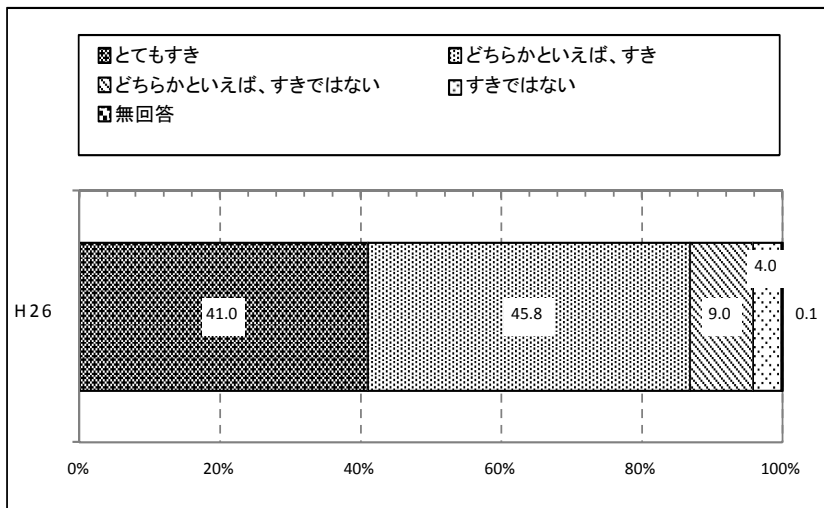
(3) 自分の町が好き【問 33】



○「とても好き」「どちらかといえば、好き」と回答した生徒の割合は86.5%である。

○「どちらかといえば、好きでない」「好きでない」と回答した生徒の割合は、13.4%である。

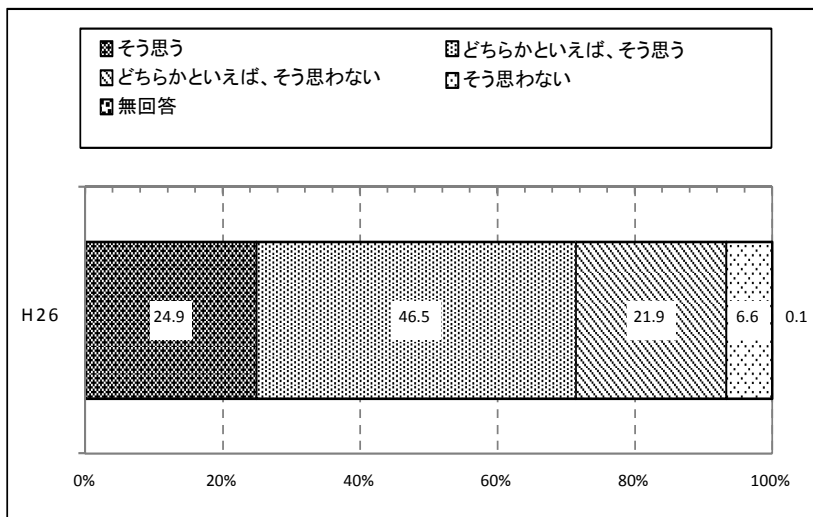
(4) 友達と協力して活動【問 34】



○「とても好き」「どちらかといえば、好き」と回答した生徒の割合は 86.8%である。

○「どちらかといえば、好きでない」「好きでない」と回答した生徒の割合は、13.0%である。

(5) 結果をおそれずにやってみる【問 35】

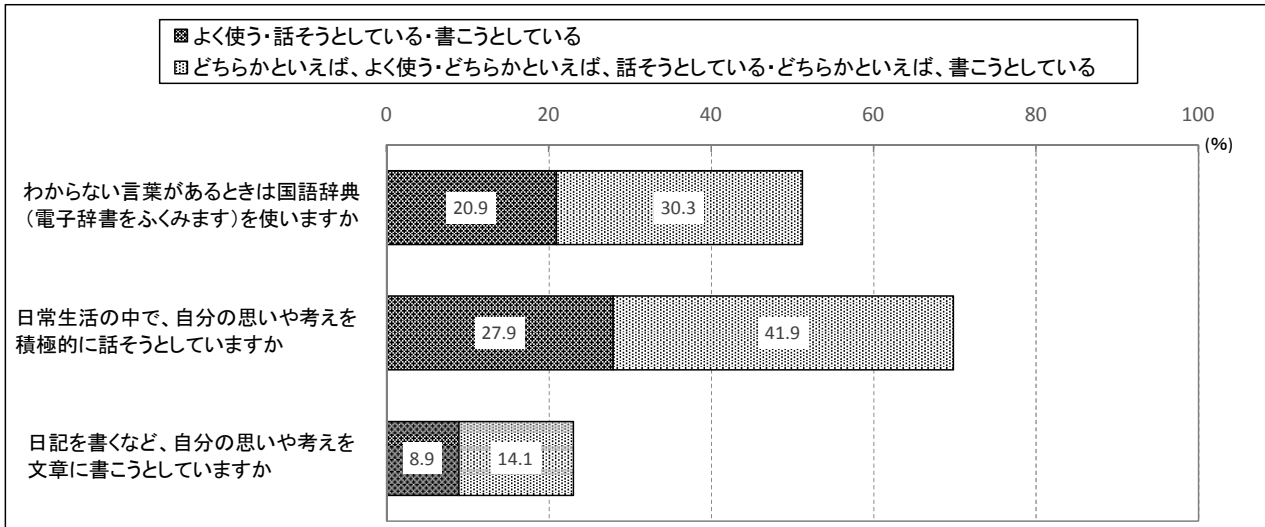


○「そう思う」「どちらかといえば、そう思う」と回答した生徒の割合は 71.4%である。

○「どちらかといえば、そう思わない」「そう思わない」と回答した生徒の割合は、28.5%である。

7 各教科等に対する意識・実態

(1) 国語【問 36～38】



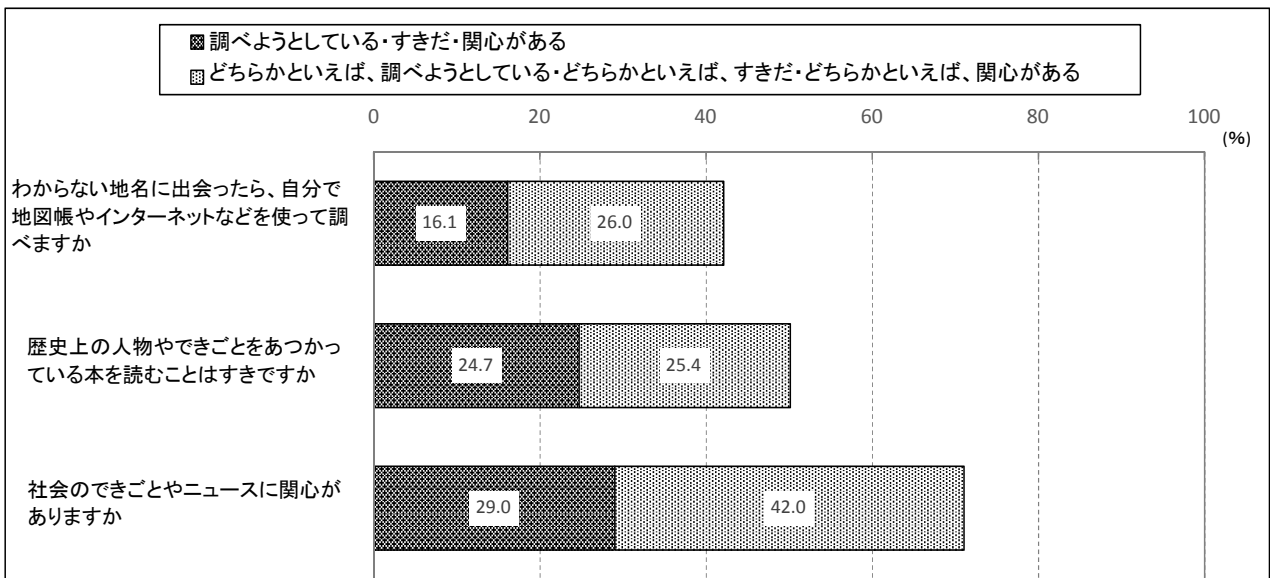
○わからない言葉があるとき、国語辞典を使う生徒は、「どちらかといえば」を含めると 51.2%である。

○「自分の思いや考え」を積極的に話そうとしている生徒、文章に書こうとしている生徒は、「どちらかといえば」を含めると、それぞれ 69.8%、23.0%である。

○昨年度と比べると、「自分の思いや考えを話そうとしている」生徒の割合は、「どちらかといえば」を含めると 0.9 ポイント増加している。

*資料 意識-25 ページ 【問 37】参照

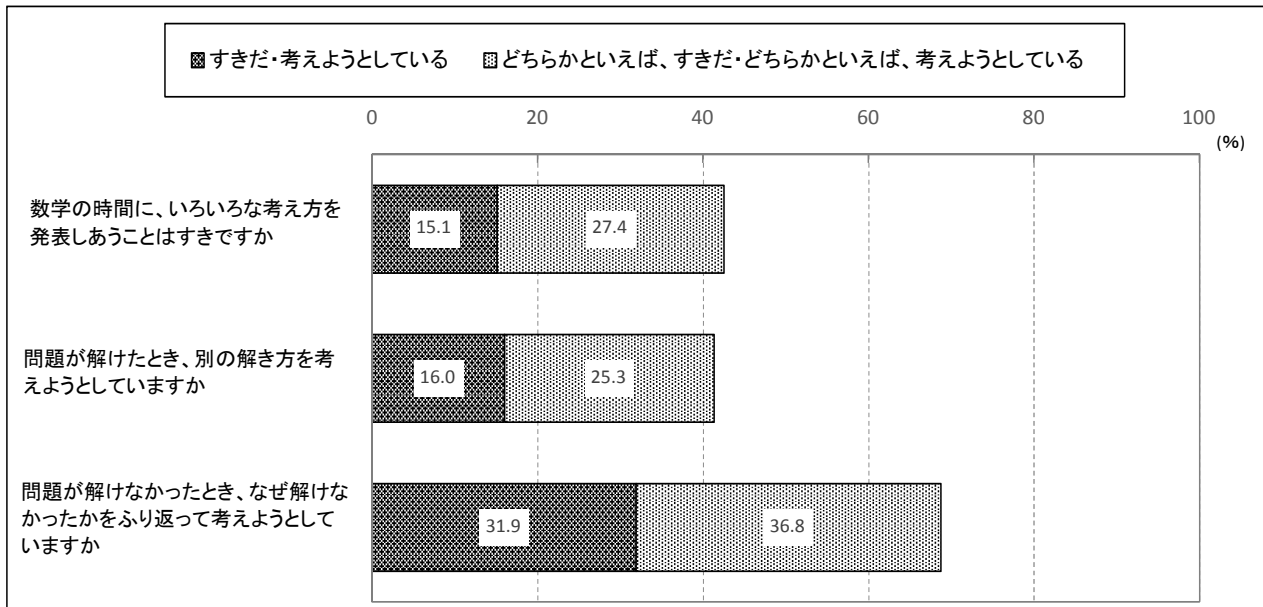
(2) 社会【問 39～41】



○自分で地図帳等を調べる生徒、歴史に関する本を読むことが好きな生徒は、「どちらかといえば」を含めるとそれぞれ、42.1%、50.1%である。

○社会のできごとやニュースに関心がある生徒は、「どちらかといえば」を含めると 71.0%である。

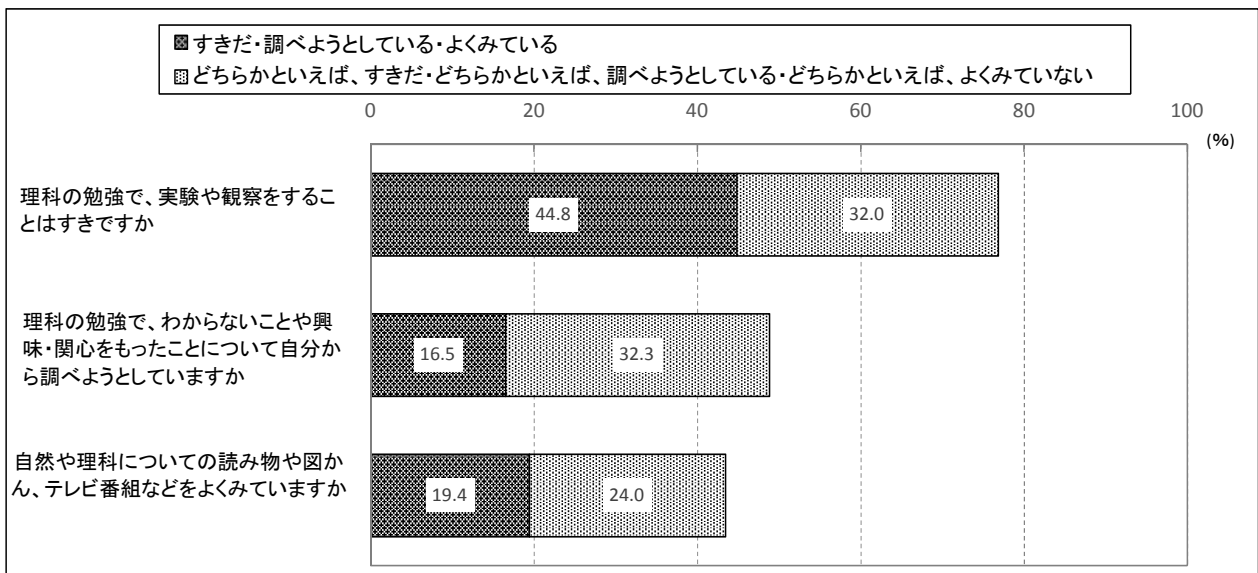
(3) 数学【問42～44】



- いろいろな考え方を発表しあうことがすきな生徒、問題が解けたときに別の解き方を考えようとしている生徒は、「どちらかといえば」を含めると、それぞれ42.5%、41.3%である。
- 問題が解けなかったときに、その理由を考えようとしている生徒は、「どちらかといえば」を含めると68.7%である。問題が解けたとき、別の解き方を考えようとしている生徒の「どちらかといえば」を含めた割合は、昨年度より0.7ポイント増加している。

*資料 意識-28ページ【問43】参照

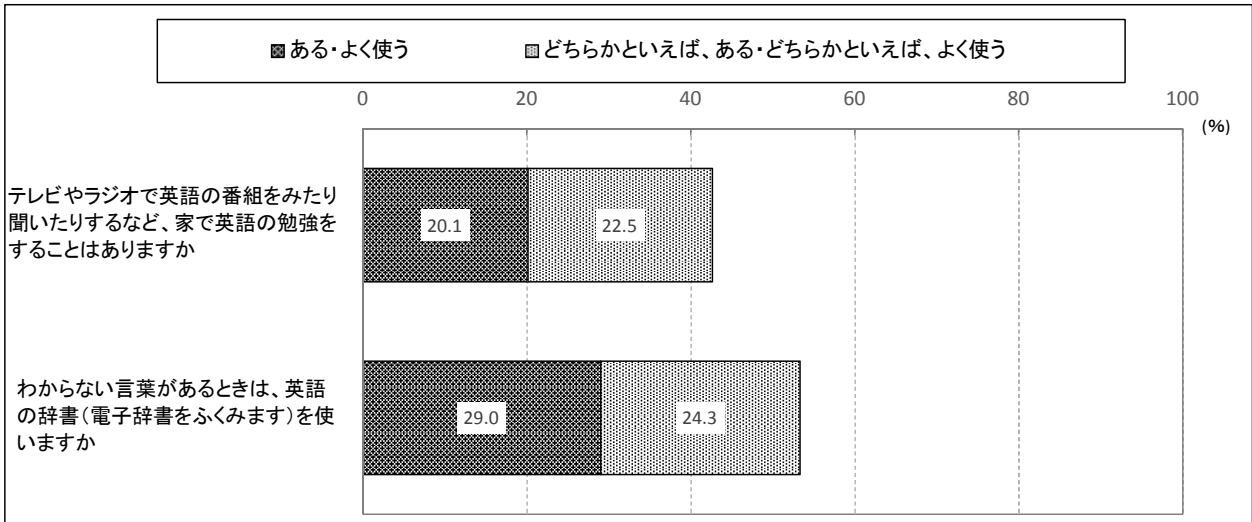
理科【問45～47】



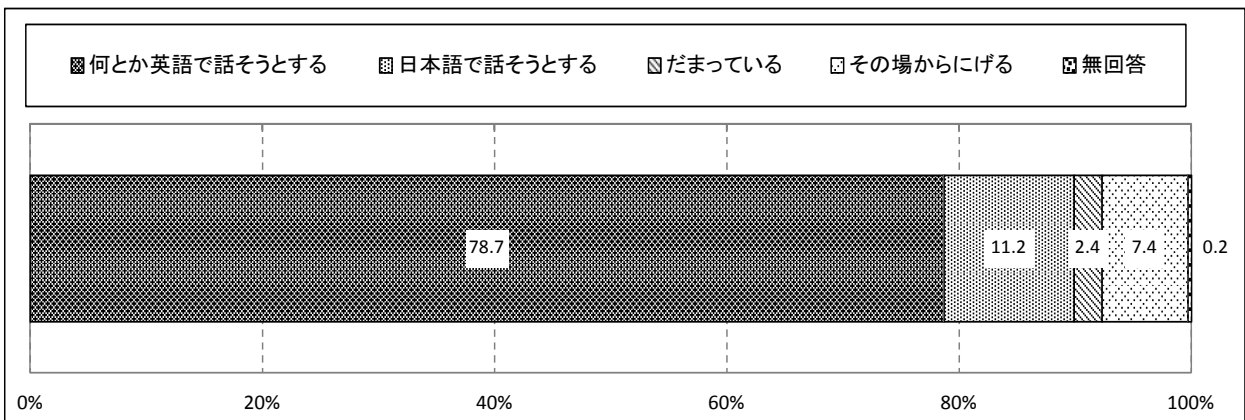
- 理科の実験や観察の授業がすきな生徒は、「どちらかといえば」を合わせると76.8%である。
- わからないことや興味・関心をもったことについて自分から調べようとする生徒、自然・理科についての読み物や図鑑、テレビ番組などをみている生徒は、「どちらかといえば」を含めると、それぞれ48.8%、43.4%である。理科の勉強で実験や観察をすることがすきと答えた生徒の「どちらかといえば」を含めた割合は、昨年度より1.5ポイント増加している。

*資料 意識-29ページ【問45】参照

(5) 英語【問 48～50】



[道で外国人に英語で話しかけられた場合]



- 家でテレビやラジオをみたり聞いたりして英語を勉強している生徒、わからない言葉があるとき、英語辞書を使う生徒は、「どちらかといえば」を含めると、それぞれ 42.6%、53.3%である。
- 道で外国人に英語で話しかけられたときに「何とか英語で話そうとする」生徒は、78.7%であり、昨年度より 3.9 ポイント増加している。一方、「だまっている」生徒は 2.4%、「その場からにげる」生徒は 7.4%である。「日本語で話そうとする」、「だまっている」、「その場からにげる」と回答した生徒の割合は、昨年度より 3.8 ポイント減少している。

*資料 意識-29 ページ 【問 50】 参照